

インフラの町医者

全9回の8
をめぐって
第8回建設トップランナーフォーラムより

「インフラの町医者をめざして」をテーマに進められたパネルディスカッションでは、初めに岐阜県の古田肇知事が「岐阜県の取り

組み」と題してキーノートスピーチを行った。

◇

古田肇岐阜県知事は、「清流の国ぎふ」をキーワードに地域づくりを進める

同県の取り組みや「地域防災の最前線に立つ建設業」

「社会インフラの維持管理・補修を担う建設業」「総合産業化による地域貢献を

目指す建設業」の三つの視点から地域で活躍する建設

産業の役割を紹介した。

◇

地域防災に関しては、①

県レベル(県と県建設業協会)

②地区レベル(土木事業所と地区建設業協会)

③

市町村レベル(市町村と各建設企業・協会)の3段階で協定を締結し災害応援

体制を構築。被災者の救出

支援、道路・河川・その他

施設の応急復旧、緊急輸送

道路の確保のための措置な



古田知事

ど、建設業が先頭に立って
緊急対応に当たっている。
各地区の建設業協会では合
計約7000人の緊急時出
動員を抱え、バックホウ、
ブルドーザーなど建設機械
約3700台を備え、発災

どさまざまな種類の道を結
んでネットワーク化する
「異種の道をつなぐネット
ワークづくり」も紹介。古田
知事は「官民が連携し、ミッ
シングリンクを解消してネ
ットワークを共同運営して

修では、官民双方に専門的
知識を持った技術者を養成
することを目的に、岐阜大
学と連携して「社会基盤メ
ンテナンスエキスパート
(ME)養成ユニット」の
講座を創設。これまでに1

全通行上問題のあるトンネ
ルはなかったものの、一部
にわたる異業種への参入が
進んでいる。
同県では、異分野に参入
する建設業に対して入札時
の優遇措置や資金面の助成
など、さまざまな支援策を
講じており、古田知事は

「今後も地域の町医者とし
ての建設業を応援してい
く」との考えを示し、命と
暮らしを守る県土整備の掛
け替えのないパートナーと
して、地域建設業のさらなる
活躍を期待した。
取材(「地方建設記者の会」取
材班)

町医者は掛け替えのないパートナー

市町村レベル(市町村と各建設企業・協会)の3段階

で協定を締結し災害応援

体制を構築。被災者の救出

支援、道路・河川・その他

施設の応急復旧、緊急輸送

道路の確保のための措置な

有林道、砂防施設管理道な

時にフル稼働するといふ。

◇

山間部の国道・地方道・

農道林道などの公道と、電

力管理道・通信管理道・林業

路網などの民道、さらに国

道

いこうという試みであり、

この担い手はやはり、地域

に暮らし、地域の社会基盤

を支える地域の建設企業の

皆さんだと協力を求めた。

◇

インフラの維持管理・補

70人のMEを認定してい

る。

そして昨年12月の笹子ト

ネル天井板落下事故後の

対応では、翌日からMEを

活用して具管理道路172

カ所の緊急点検を実施。安

地域建設業の総合産業化

の取り組みは、2008年

1月に建設トップランナー

フォーラムの環境ビジネス

・森林再生合同分科会が岐

阜市で開催されたのをきっ

かけに、林建協働の取り組

みが本格的にスタート。そ